

社側の誠意に期待

国の結論で直ちに交渉

……新正副会長語る……

水俣病患者家庭互助会の山本会長、中津副会長は十五日の臨時総会のあと、水俣病に関する補償問題や今後の互助会の方角などについて、の質問にたいして要旨次のよ

うに語った。

——従来の会社側との契約書を白紙にかえすのはなぜか。

答え 従来の契約書は、また原因に対する国の結論が出ていない段階でつくられたもので、たとえば『見舞い金』という表現もおかしい。当然『補償金』だろ。特に第五案の「将来の水俣病が工場廃水に起因することが決定した場合においても新たな補償金の要



互助会の新方針を語る山本会長と中津副会長

求はいっさい行なわないものとする」という項目は、最も問題なので、当然削除しなければならず、従来の金額にしても根本的に要求の性格が変わるので、白紙にかえてやり直すつもりだ。

——会社側はあくまで従来の契約書に基づき改定していくといっているが。

答え われわれのこんごの要求内容は、従来のものをほとんど改定する必要があるので、白紙にかえすのは当然でしょう。会社が従来の契約をあくまで基本にするということであれば、会社側の誠意の問題として第二弾、第三弾の方法が起きてきてもしょうがない。しかし互助会としては第一段階での解決を期待している。

——補償についてのこんごの要求額は。

答え 早急に各会員のいろいろな条件を検討したい。従来の契約書

の金額は問題にならないとしても、非常論な要求はしないつもりだ。国の結論が出たらすぐ会社側と交渉を開始できるよう早急に準備に入る。

——互助会の中で最近訴訟を起こす動きがあり、すでに決意を表明した人もいるが。

答え 互助会として「訴訟するな」という制限もないし、あくまで本人の意思にまかせるほかはない。ただ、残念なことは「訴訟はなるべく避ける」という会員として同意書を提出していないが、会には何の咎もなくほかの支援団体が訴訟の決意を表明したことは、筋が通らないと思う。本人の意思とは別に、入れ知恵があったのではないかとの見方をされても仕方がない。もっと慎重にやってほしい。訴訟を起こした人を除名することは考えていない。

——互助会を支援する動きが高まっているが。

答え 基本的には各種団体の支援を受けていることはありがたいと思っている。しかしあくまで互助会の自主性を尊重してくれる支

援であって、互助会が主体で決断していくと思う。

——最後に、会長先生の問題は。(中津副会長に対して質問)

答え 二人とも性格的には全く違つが、これまで同じくいろいろな問題に対処してきたつもりだ。どちらかといえば山本会長は私より性格が強い。重大な問題だけに、私より行動的な山本会長を適任者とみた。私ももちろん安房役としてこの会員みんなの意見を尊重しながら総務・四部課決に努力するつもりだ。